

# 地域での自立生活実現の 課題と移動に関する問題点

特定非営利活動法人 自立生活センター・小平  
佐藤草作

## 自立生活センター(CIL)とは

- ・「障がい者が主体」となって運営
- ・「権利擁護」を活動の基本に
- ・「障がい者が地域で暮らすためのあらゆるサービス」を提供

## 自立生活センター(CIL)とは



## 自立生活センター・小平の特徴

- ・重度障がい者を中心にサービス提供  
全身性障がい者、最重度知的障がい者など
- ・提供サービスの種類が多い  
相談支援、自立生活プログラム、ピアカウンセリング  
移送サービス、介助サービス、講師派遣  
研修、政策提言

## 地域の実情:小平市とその隣接市

- ・福祉の社会資源は比較的多い  
学校、施設、作業所、(病院)
- ・東京(多摩地区)は昔から障がい者運動の盛んな土地柄
- ・知的障がい者の地域(自立)生活の事例は少ないが、  
その中でも、東久留米、西東京、清瀬などは比較的事例が多い

## 地域の実情:小平市とその隣接市

### ◆交通機関について

- ・駅は、ほぼ全てエレベーター設置、バスもノンステップバスが普及
- ・接遇は、鉄道会社・バス会社によって温度差がある  
⇒バス会社の車いす乗車拒否をめぐり、交渉を行うなどの啓発運動を行った

## 知的障がい者の自立生活の実際

### ◆CIL小平では3名の方の自立生活を支援

- ・Aさん 20代 男性 自閉症
- ・Bさん 40代 男性 脳性麻痺
- ・Cさん 40代 男性 ダウン症

## 知的障がい者の自立生活の実際

### ◆支援体制

- ・24時間365日、介助が必要
- ・平日日中は作業所にて仕事
- ・上記以外は、ヘルパーによるマンツーマン介助
- ・GM、介助コーディネーターによる支援体制の統括

## 知的障がい者の自立生活の実際

---

### ◆居住場所の確保

- ・現在、全員が同じアパートに住んでいる
- ・実績と偶然が重なって実現
- ・大家さんの理解と、不動産屋さんの信頼

## 知的障がい者の自立生活の実際

---

### ◆交通機関の利用

- ・介助者と1対1で、公共交通機関を利用するのが基本
- ・心身の状況によって、個別に移送サービスなどを利用
- ・運動的な視点

## 地域生活実現に向けての課題

---

### ・地域との関係

住居、地域住民の理解、公共施設での理解

### ・家族との関係

本人と家族、支援者と家族

### ・支援体制の確立

ヘルパー育成の難しさ

## 交通機関を利用する上での課題

---

### ・「コミュニケーション」が問題となる

### ・他人との関係性の中で見えてくる課題

⇒交通機関固有の問題というより、生活全てにかかわってくること

### ・「問題行動」「行動障がい」！？

⇒コミュニケーション手段として見る「行動」

## まとめ

---

◆地域生活における知的障がい者の移動を保障するには

- ・「実態」を作っていく
- ・社会との媒介としての交通機関